



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三五四号〕

はくろ
白露

九月七日

神さんは左、仏さんは右

東京オリンピック・パラリンピックが終わり、季節は秋へ、九月ともなると朝夕は涼しくなりました。

オリパラでは、予想以上の選手の活躍で、多くの日本人メダリストが誕生しました。選手が表彰台上がり、国歌が流れ、国旗が掲揚されると、気持ちも高まりました。その際、金メダリストの右側に銀メダリスト、左側に銅メダリストが並ぶことに気づかれたでしょうか。右側の方が、左側より順位が上なのです。これは国際的なルールでは、「右上位」であるからです。

しかし、日本では左側が高い順位になります。こちらは「天子南面」といって、天皇が南を向くと、左側が東になります。その東から太陽が昇るので、日本では左側が優位になっています。伊勢神宮をはじめ、神社の社殿が南向きに建つのもここに由来しています。

先日、鳥羽湾に浮かぶ答志島の町内会長に、船の右側と左側のルールについて教えてもらいました。船首に対しておめでたいときは左側から乗せるといいます。例えば、家を新築するときの木材や神社関連のものは左からで、そのため、「神さんは左から乗せる」といいます。一方、「右からは仏さんに乗せる」といいます。亡くなった人は必ず右側から乗せる習慣で、例えば、八月の盆送り行事の精霊船しやうりやうぶねは右側から乗せていました。こうしたルールは、縁起を担ぐもので、この島で生まれ育ち、生涯過ごす者としては、神仏に守ってもらうために、今後も続けていくということなのです。そのあと町内会長はこう話を続けました。

「死人は右から乗せるけど、怪我人は左から乗せるよ。怪我が治ってほしいからね」。この言葉に、海に生きる人々の優しさを感じました。答志島では秋になると、サワラ漁が始まります。

文 千種清美

